

## 2024年3月3日 四旬節第三主日礼拝説教

「御体のうちにあるもの」(ヨハネ2章13～22節)

### ○ヨハネ2章13～20節について

「この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる。」(19節)  
救い主イエスの働きが始まって未だ間もない時。「過越祭が近づいたので」(13節)、キリストはエルサレムの神殿に行き、そこで金儲けをする人を追い出し、神殿で最も大切なものは、〈ご自身の体、命〉のうちにあることを示された。

\*過越祭：エジプトへの災いが下った時、神は、小羊の血を入口に塗った家を過越され、その中にいた民の命を救われたことに、感謝と賛美を献げる祭り。

問：神殿は、なにをするところだったのか？

◎聖書朗読：列王記上9章1～9節(旧約545ページ)

☞神殿とは、神が天から降りて来られるところであり、神の御声を聞く民が戒めを守り、献げ物により〈罪の赦し〉が施され、祈りをもって〈神の憐れみ〉に与かるところ。

※やがて神殿は壊されるが、キリストは死の後に復活する。

今日のみことば：ヨハネ2章21節

「イエスの言われる<sup>い</sup>神殿<sup>しんでん</sup>とは、御<sup>ご</sup>自分<sup>じぶん</sup>の体<sup>からだ</sup>のことだったのである。」

キリストは、ご自身の御体を神殿で供えるべき〈生け贄〉として、十字架の上で献げられた。この聖き献げ物によってとこしえに変わらぬ〈罪の赦し〉が、あなたのものとなる。

「あなたがたは、自分が神の神殿であり、神の霊が自分たちの内に住んでいることを知らないのですか。」(Iコリント3章16節)

☆御体のうちにある〈罪の赦し〉をとおして、わたしたちも憐れみを賜る「神殿」になり、いつも神は、赦しを受けたあなたの心に降りて来られ、その祈りを聞こうとされる。

※生ける神殿は、いついかなる時も、あなたのうちに。